

迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

前回よりの続き・・・

想定日時 2012年12月13日(木) 13時

M9の巨大地震が発生

「加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた」

シリーズ 「災害への想定」 Story5

おや？ラジオから流れる情報に変化がみられた。『ガスや電気・水道が、停止している場合、しばらく自分たちだけで暮らしていくための準備をしてください』と、ラジオから聞こえてきた。

今回は、私たちの生活に大きな支障をきたすライフライン（電気・ガス・水道・情報伝達網・交通）について考えてみましょう。

大地震発生後は、すぐにライフラインを確認しておきたいと思うはずです。しかし、電気やガスは火災の原因にもなりかねません。電気はブレーカーを落とし、ガスは速やかに元栓を閉じましょう。

まず、ガスについてですが、地震の揺れがおさまり次第、ガス機器の火を消し元栓を止めたら、ガスの臭いがしないか確認してください。もしもガス臭い場合は窓や戸を大きく開けて換気をします。

ただし、換気扇はスイッチの火花が火災の原因になるので使用しないでください。もしも、ガスの元栓を止めてもガス臭い場合は、ガスメーターの所にあるコックを閉栓し、ガス会社に直ちに連絡しましょう。尚、震度5クラス以上の揺れの場合は、マイコンメーターが作動し自動的にガスの供給を遮断します。解除する時は注意！

水道は、すぐに遮断されることは少ないようです。給水の区分けには『直圧直結給水方式（戸建含む）』『増圧直結給水方式』『高置水槽方式』等で、対応も分化されます。直圧直結給水方式の場合、水道が使えるうちは必要な水を確保することができます。グリーンシティの場合、電動の増圧ポンプにより各戸に送水するシステムですが、停電してしまえば水は出ません。高置水槽方式では、一定量の水が確保されていますが、各戸が我先に水の確保をしようとすると直ぐに高置水槽は空になってしまいます。冷静な行動を！



給水ポンプを使用している集合住宅の場合、公共水道本管にダメージがなければ、電気の復旧と同時に水道の給水は再開されます。しかし、阪神・淡路大震災でクローズアップされた、受水槽以降の配管の破損により、確保されているはずの水が流出したり、破断による漏水で配水ができなくなったりと、復旧まで生活水の確保に苦労したということがありました。そこで、受水槽出口の配管に地震の揺れを感知して、給水を自動停止させる「緊急遮断弁」を取り付け、地震発生時に作動させることで、配水管破断による漏水防止と、確実に生活水を確保する対策も進められているようです。

また、配水を停止することによるもう一つの大切な効果として、排水管の破断による漏水予防です。給水がなければ、大量の排水もなく排水管から汚水の漏水という大変な事態を防止することができるのです。

次に、電気が止まってしまった場合はどのようなことが発生するか想定してみましょう。

《情報の不足》

- ・テレビが映らない
- ・インターネットが繋がらない

《衛生面、空腹感》

- ・冷蔵庫が冷えない
- ・電気調理器が使えない
- ・水が出ない

《生活の不便》

- ・照明がつかない
- ・エレベーターが動かない

《流通停止》

- ・ATMが使えない
- ・スーパーやコンビニ等の営業停止

《交通マヒ》

- ・信号機の停止
- ・公共交通機関等の停止



エレベーター利用中に地震に遭遇したら



中でも一番の不安は「情報の不足」です。そのため、情報入手が容易な電池式ラジオは、備蓄品の中でも優先順位として上位に位置しています。

忘れてはならないのが、揺れがおさまった後、電話の受話器が外れていれば必ず直しておくことです。受話器が外れていると、電話が通話状態と同様になり回線がパンクしてしまいます。忘れず元に戻しましょう。また、生命に関わるような事案や先に述べたガス漏れ通報以外の電話の使用は控えましょう。「あの人大丈夫かな？」程度の利用は絶対に慎みましょう。

さあ、ライフラインが復旧するまで「我慢」することが多くなります。このような時には、家族や近所の方々とは声を掛け合い協力し合う必要があります。

さて、ライフラインも確認できました。「おや、近所で助けを呼ぶ声がします。大変だ！」・（次号へ続く）